令和4年10月10日発行・（毎月1回10日発行）通巻985号 ISSN0017-6605

手足の不自由な子どもたち

はげみ

令和4年度／No.406
10/11
October— November

特集　自宅でのリハビリテーション

第40回（令和３年度）肢体不自由児・者の美術展入賞作品『大きな　まち』
近藤　空馬

社会福祉法人　日本肢体不自由児協会

はげみ

令和4年度／No.406
10/11
October—November

特集　自宅でのリハビリテーション

Contents

広場　自宅でのリハビリテーション…… 小﨑　慶介…2
Sec.1　障害当事者となった作業療法士から見た自宅でのリハビリテーション　… 黒澤　淳二…4
Sec.2　自宅でのリハビリテーション
（療育センター療法士の立場から）…… 増渕　順恵・奥村　久美…12
Sec.3　小児の訪問リハビリテーション …… 直井　寿徳…19
Sec.4　コロナ禍での遠隔外来療育の試み …… 酒井　康年…26
Sec.5　学校休業中の遠隔自立活動について …… 滝本　ひろみ…31
Sec.6　「訪問教育における身体の取り組み」
～身体を通してのコミュニケーション～ …… 芋川　恵美子…38
Sec.7　ゲーム感覚のリハビリテーション …… 仲村　佳奈子…45
Sec.8　自宅でのリハビリテーションについての意識調査結果
～全国肢体不自由特別支援学校ＰＴＡ連合会保護者会員へのアンケート結果より～
…… 空岡　和代…52
今号の表紙 …… 近藤　空馬…56

広場

自宅でのリハビリテーション

心身障害児総合医療療育センター　所長
小﨑　慶介

手足に不自由のある子どもが、療育施設や特別支援学校（級）に利用・登校するにあたって、家族や関係の方々が多くを期待することの一つにリハビリテーションの実施があります。

しかし、利用者の数とリハビリテーション担当職員の数のアンバランスもあり、外来リハビリの頻度は多くの地域では、多くても1週間に1回程度であり、少ない場合には数カ月に1回程度となっており、施設の療法士から「宿題」が出ることもあります。

少ない頻度を補う目的もあって、最近では訪問リハビリテーションもよく利用されています。

令和元年末よりの新型コロナの流行により、元々少なかったリハビリテーションの実施頻度がさらに減ってしまいました。結果的に「自宅でのリハビリテーション」の比重が高まったことは間違いありません。

療育施設や学校の中には、いろいろな手段を駆使して「自宅でのリハビリテーション」をサポートするための試みを行ったところもありました。それらの中には、新型コロナの流行後でも活用できそうな取り組みもあります。

日本リハビリテーション医学会では、平成29年にリハビリテーション医学を「活動を育む医学」と再定義しました。この表現は抽象的でわかりにくいかもしれませんが、ここで言う「活動」は、「就活」や「婚活」といった特定の目標を実現するための活動ではなく、広く人間が生きていくうえで行っている日々の活動（生活そのものと言っても良いと思います）のことを指しています。「活動を育む」とは、

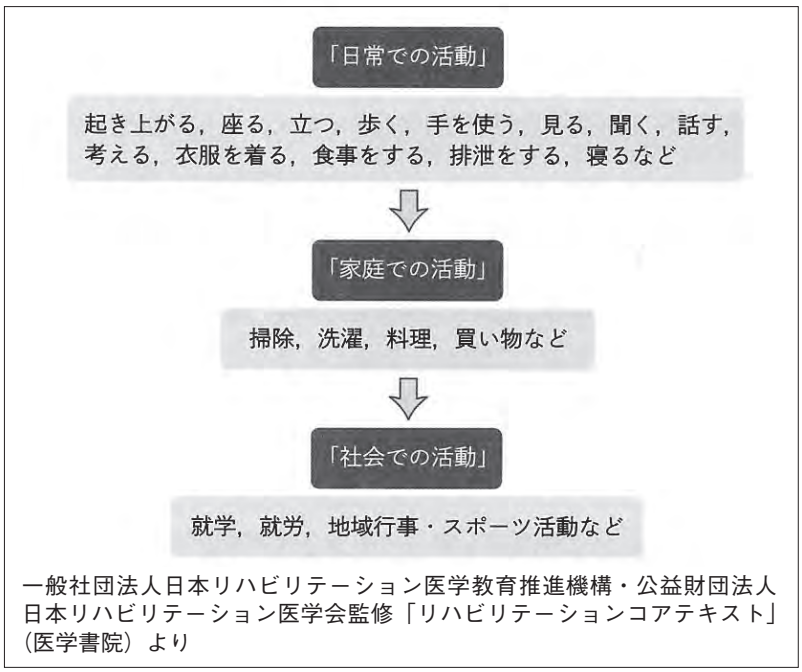
「病気やケガなどで低下している患者の身体と心の働きを回復させて障害に打ち勝つ」という、従来からのリハビリテーションのイメージに加えて、ヒトのくらしの基本となる「活動」をいろいろな形で高めることを通して、その人の人生の質を高めよう、という考え方です。

ヒトの活動は、図表1のように「日常での活動」、「家庭での活動」、「社会での活動」といったレベルに分けて考えることができます。このうち、「自宅でのリハビリテーション」が目指すのは、主に「日常での活動」、「家庭での活動」の質を高めることであると考えられます。

「自宅でのリハビリテーション」は、必ずしも施設や学校での取り組みをそのまま再現することではありません。療育施設や学校で基本的な身体の使い方や補装具などの補助的な手段の使い方を学び、これを応用し考え方を生かして「日常での活動」、「家庭での活動」でできることを増やしてくらしをより良くしていければ理想的です。

「リハビリテーション」はあくまでも、「くらし方をより良くする」という目的のための手段です。手段そのものが目的にならないように、本人・家族・支援者の全てが意識することも大切なことと考えます。そのためには、「楽しくできるリハビリテーション」、「自然にできるリハビリテーション」という視点も重要です。そのような観点から、「遊びを通したリハビリテーション」の一例も紹介しました。

本特集を通して、日々のくらしの中に無理なく自然に「リハビリテーション的な考え方」が浸透できれば、理想的な「自宅でのリハビリテーション」を行うことができると言えるかもしれません。



一般社団法人日本リハビリテーション医学教育推進機構・公益財団法人日本リハビリテーション医学会監修「リハビリテーションコアテキスト」（医学書院）より

図表１　ヒトのくらしにおけるさまざまな「活動」